

⑭水文観測所点検における事故とコロナウィルス対策

㈱平成測量 令和4年度水文観測所等見廻り点検業務
 (工期：令和4年4月1日～令和5年3月31日)



主任技術者 平井 雅也

キーワード 交通事故、危険生物、コロナウィルス

1. はじめに

本業務は、水文観測業務規程に基づき高原川流域の水文観測所等の観測機器及び観測施設の維持管理のため、機器の保守点検、取得データのとりまとめを行うものです。

2. 業務内容

本業務では、下表の観測所機器等の保守点検、データ回収、自記紙の取り替え等を月1回、総合的な点検を年1回実施する他、工事による温泉水の影響調査等を実施しています。

種目	観測所名	種目	観測所名
雨量 (通年)	中尾	温湿度	栃尾
	栃尾		殿
	殿	水位	道観松
	一重ヶ根		今見橋
	平湯		右俣谷
	双六		牧土橋
雨量 (夏季のみ)	左俣谷		西里橋
	外ヶ谷		中山橋
	焼岳	しのぶ	
	小鍋谷	積雪深	穂高
	平湯峠		西穂高口
	安房峠		大棚
	餌掛谷	空振	大棚
	岩坪谷	降灰量	大棚
	大棚	微弱地震	日影1号
	広河原		黒谷3号
	金木戸		平湯無線
	巢山		大棚

表1 観測所一覧

3. 業務時想定されるリスク

本業務では、作業箇所が神通川水系砂防事務所管内の広範囲にわたり、山中を徒歩で移動する箇所も多く存在するため以下のリスクが想定される。

- ①夏季の外作業による熱中症リスク
- ②長時間の運転による事故リスク
- ③山中の作業による危険生物(熊、蜂、蛇等)リスク
- ④山中の作業時における土砂災害、落石リスク
- ⑤新型コロナウイルス感染によるリスク

4. 想定されるリスクに対する対策

以下に調査期間中に行った予防対策を示す。

4-1 気象情報の共有

作業日の気象情報を共有し、川の防災情報や高山市が配信している防災情報メールを取得することにより現地状況の把握に努めた。

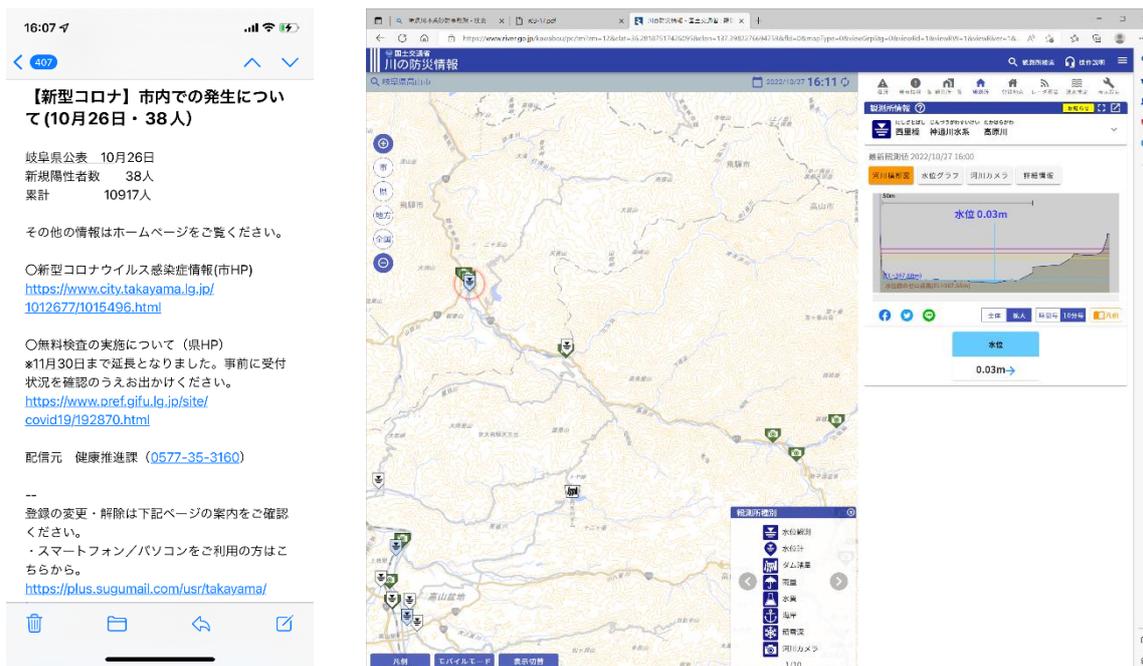


図1 防災メール、川の防災情報

4-2 交通事故対策

毎朝、出勤時にアルコールチェッカー(右図)によりアルコールが検知されないことを確認後、車両の運転を行った。また、長時間運転による事故防止のため1時間おきに休憩を取るよう指導し、余裕のある作業計画を立てた。社内ポスター(右図)による注意喚起も実施した。



4-3 危険生物対策

点検作業は複数人で実施し、山中の移動時は携帯ラジオ、熊鈴、熊撃退スプレー、蜂撃退スプレーを携帯した。また、簡単な応急手当が出来る様、包帯、絆創膏、ポイズンインセクトリムーバー、冷却材、ハサミ等を車両に搭載した。通話圏外でも連絡が出来る様、衛星携帯を用意した。

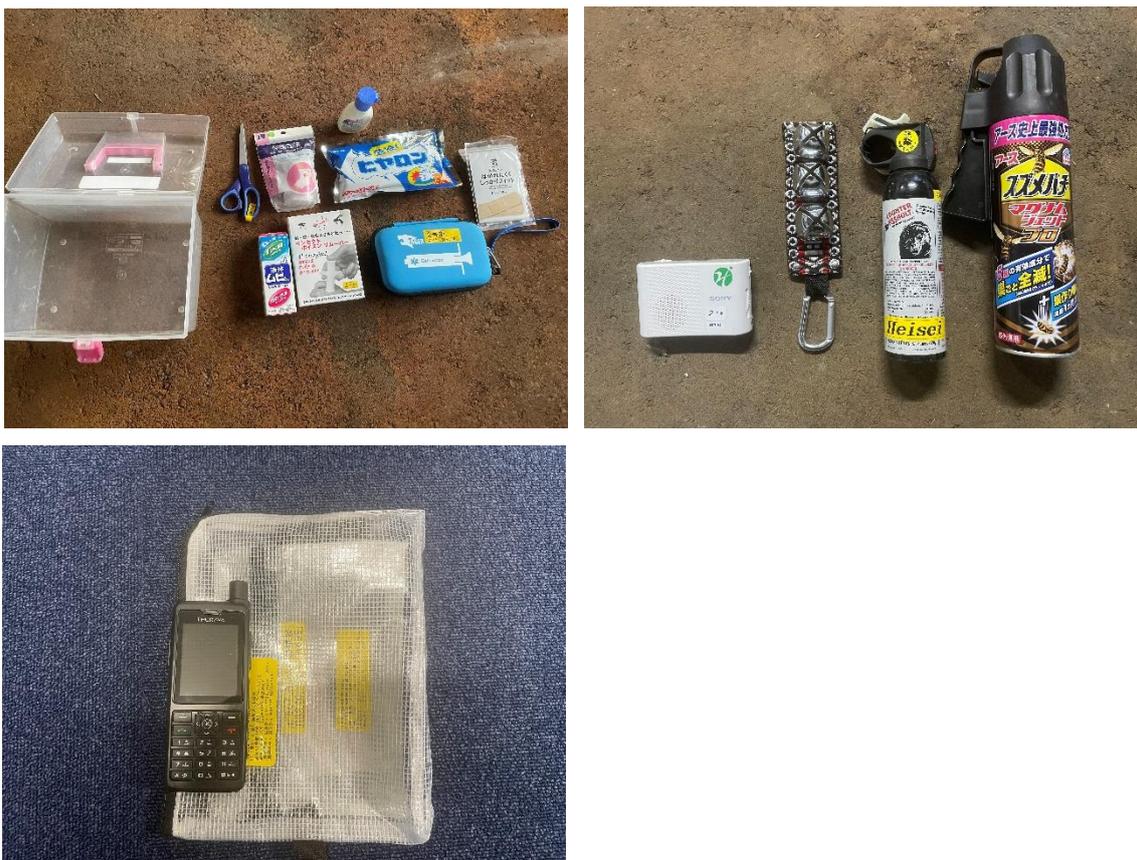


図3 車両内備品、携帯備品

4-4 新型コロナウイルス対策

ワクチン接種による重症化リスクの低減はあったものの、感染者当人はもちろんのこと濃厚接触者においても隔離措置が必要であるため蔓延防止対策が重要である。

感染予防対策として、室内でのマスク着用、打合せの際には極力参加者を絞る、ワクチンの接種を行った。



図4 抗原検査キット

蔓延防止対策として、毎朝出勤時に非接触型体温計による体温測定と手指消毒を実施し、体調不良時にはすぐに検査が出来る様に抗原検査キットを常備した。



図5 手指消毒、非接触型体温計

5. おわりに

現在、日本各地で猛暑、線状降水帯や台風による集中豪雨、太陽光発電所等設置のための森林伐採による土砂崩れ・土石流を耳にする機会が増えてきました。また、神通川水系砂防事務所管内においては熊の出没情報が頻繁に届きます。自然災害や生物の移動による不意の遭遇は完全に防ぐのは難しいことかもしれませんが、意識して周囲を観察していれば防げる事故もあるでしょう。業務内容に直接関係が無くても移動経路周辺の状況を確認し、通常時に起こりうるリスクを確認しておくことによりいざという時に最悪の事態を免れる事もあるかと思いますので、気づいた事は作業員間でKY活動等により情報共有し安全性の向上に努めていきます。